Plan news

プラン・ニュース［2015 Spring］No.98

インタビュー

プランの災害緊急支援担当
ウニ・クリシュナン医師に聞く

カンボジア

子どもたちが取り組む、安全な学校づくり

プランの若者も参加した国連防災世界会議 in 仙台

子どもと築く、未来のしくみ

Plan
プラン・ジャパン

発行：公益財団法人プラン・ジャパン

キーパーソンに聞く｜プラン・インターナショナル災害緊急支援担当／医師

Dr. ウニ・クリシュナン

被災地での支援は、物資面と心理面の両方から総合的に行う必要があります。連帯することで、たとえ遠く離れたところからでも、活動に参加し地域に変化を起こせるのです。

災害緊急支援のエキスパートとして、20年以上にわたって世界中の被災地で活動を続けてきたドクター・クリシュナン。今年3月、仙台で開催された第3回 国連防災世界会議のために来日した彼に、あらためて、被災地支援や防災を考える際に大切なことを聞きました。

――人道支援の道に進むまでの経緯について教えてください。

ドクター・クリシュナン（以下敬称略） 私はインド南部のケララ州というところに生まれ育ちました。ここはインドとしてはかなり恵まれた地域で、私も基本的に何不自由なく育ちました。学校に通うようになり、新聞やラジオでエチオピアなどの食料危機について知るようになりました。最初は「飢餓」の意味すらわからず、母に尋ねたら「食事を3回抜けばわかるわよ」と言われたのをよく覚えています。

私は飢餓のことを考えると無性に悲しく、腹立たしい気持ちになりました。すると母は、「問題ではなく、解決策に目を向けてみたらどう?」と言います。まだ無知な子どもだった私は、「医者になって飢餓を治療する」と決意しました。飢餓は発熱や咳と同じ病気の一種だと思ったのです。もちろん、すぐにその勘違いには気づきましたが、ともかく私は大学に入り、医学を学びました。しかし当時はちょうどタミル人の難民問題や、史上最悪の化学工場事故などが起きた時期で、その支援活動をするうちに、結局卒業後も診療所での勤務ではなく、人道支援の道へ進むことになったのです。

――心理社会的アプローチによる支援とはどのようなものですか?

クリシュナン 私は1991年から人道支援に携わっていますが、1993年にインド中央部で、1万人もの人が亡くなったラトゥール地震が発生した際、現場にいて不思議に思ったのは、子どもの姿をほとんど見かけないことでした。

何日か後、ラトゥールを離れて空港に向かっていたとき、偶然、クマの曲芸をする旅芸人のまわりに大勢の子どもたちが集まり、大喜びしている光景を目にしました。私はその旅芸人の男を雇って、急遽ラトゥールへと引き返しました。そして現場でクマの曲芸をやってもらったら、あっという間に70人もの子どもたちが集まってきて、本当に楽しそうな表情を見せてくれたのです。

当時はまだ「心理社会的アプローチ」という言葉すらほとんど知られていませんでしたが、後から考えると、これが私が初めて行った心理社会的アプローチによる支援でした。被災地での支援は、物資面と心理面の両方を結び付け、総合的に行う必要があります。それが心理社会的アプローチであると私は考えています。

――近年注目される「レジリエンス」（回復力、立ち直る力）とはどのようなものでしょうか。

クリシュナン 私が考えるレジリエンスとは、新しいことをするのではなく、これまでとは異なる方法で取り組むということです。私はインドにいた頃、地震が起これば人が死ぬのは仕方ないと思っていました。しかし日本など先進国の状況を知り、人を殺すのは地震ではなく脆弱な建物だと気づきました。たとえば2005年のパキスタン地震では1万5000人以上の子どもが亡くなりましたが、これも学校の建物が脆弱で、子どもたちが避難手順等を知らなかったことが大きな要因でした。

人は世界中どこに住んでいても、災害の被害を受ける可能性があります。ですから、起きてしまった災害から立ち直る力（レジリエンス）をつけておくことが大切。そのためには日ごろから災害に備えることが重要なのです。プランは現在、世界31カ国で「災害に強い学校作り」を進めています（P6参照）が、事前に災害について学び、一度災害を乗り越えれば、その次はさらに立ち直るのも早くなります。その意味で日本は、防災・レジリエンス大国だと思います。

――プランの活動では、そうしたプロジェクトに子どもたち自身が積極的に関わっていることも大きな特徴ですよね?

クリシュナン その通りです。私たちにとって学校は、ただ単に教育を行うだけの場所ではなく、よりよい社会を作るための「人材」を育てる場所でもあります。プロジェクトに子どもたちが参加することで、防災そのものの知識に加えて、自分たちの権利に関する知識や、社会に対する責任感をも身につけることができるのです。

災害が発生した際の緊急・復興支援はもちろん大変重要ですが、「備え」のための支援も同じく非常に重要だと思います。プランには「スポンサーシップ」という寄付方法があり、これが備えのための支援を安定的に支えてくれます。

人道支援において大切なのは「ソリダリティ」（連帯）。活動地域から数万キロ離れたところでも活動に参加し、地域に変化を起こすことができるのです。これは決して小さなことではなく、素晴らしいことです。支援を続けてくださっているスポンサーのみなさんには、この場を借りて、私からも感謝したいと思います。

（上）2011年、東日本大震災の被災地を視察するクリシュナン医師
（左）2013年、マリの避難民キャンプで乳児を診察

Profile

医師・災害緊急支援専門家。1991年以来、インド、パキスタン、中国、アフガニスタン、ハイチなど世界各地の災害・紛争地域で、人道支援のコーディネートや、被災者の心理社会的ケアの支援を行う。また、国連主導の国際支援ガイドライン作りにも深く関わっている。2015年3月には、東日本大震災の発生以来4度目の来日を果たした。

世界で、日本で、取り組むプランの活動を紹介

世界の国々との連携がますます活発に

プランの世界と日本の活動をピックアップしてご紹介するこのコーナー、今回は、仙台で開催された第３回国連防災世界会議の様子やプラン・ジャパンが関わるプロジェクトのご報告をお届けします。

3月15・17日 第3回 国連防災世界会議にて「被災者の心のケア支援」、「女の子が直面する課題」をテーマにパブリック・フォーラムを2つ開催しました

2015 年３月 14 日から 18 日まで第３回国連防災世界会議が仙台市で行われ、プラン・ジャパンは、２つのフォーラムを開催しました。両会場とも立ち見の参加者が出るほどの賑わいを見せ、大震災発生からこれまでの４年間を振り返り、今後再び起こり得る災害への対応を考える良い機会となりました。

15 日には「被災者の心を支えるために〜東日本大震災支援のこれまで、そして今後の災害に備えて〜」と題してパブリック・フォーラムを開催。被災者の回復力を引き出す心理社会的アプローチについて、プランの災害緊急支援担当のウニ・クリシュナンが世界の紛争地域での経験を交えて講演。「楽しむこと」「地域とのつながり」によって心が回復していくことが分かりやすく紹介されました（P2 にインタビューを掲載）。

17 日に開催された「災害と女の子たち〜ガールズ防災会議〜」では、大崎麻子プラン・ジャパン理事が、東日本大震災後の若年女性の調査報告から問題提起。女の子の声を聴き、社会に反映する仕組みと、女の子のエンパワーメントが求められていると訴えました。参加者からは、「世界の事例から、日本の女の子たちにはもっと力を発揮できる可能性があると思えた」との声が寄せられました。

また、17 日のフォーラムに参加した、カンボジアの若者イェン・ソフューンさんが国連本体会議会場で行われた教育と防災に関するワーキングセッションにも登壇し、地域の子ども議会のリーダーとして活動したことを紹介（活動については、P6 に詳細を紹介しています）。プランは、諸団体とともに、今後の世界の防災施策の指針となる「仙台行動枠組」に、子どもや若者の参画、災害に強い学校づくり、防災教育の普及などの視点を取り入れる働きかけをし、採用されました。

国連本体会議に参加するプランの若者イェンさん（右から２人目）

会議に参加した若者と国連事務総長

世界と日本におけるプランの主な活動記録

2014 年 11 月〜

2014年11月
ジョシュア・リスウッド（元プラン・カナダの理事）がプラン国際本部の新しい理事長に選出されました。

12 月９日
マララ・ユスフザイさんが最年少でノーベル平和賞を受賞。プランも、マララさんを迎えて関係機関と祝賀会を開催しました。

祝賀会でスピーチするマララさん

1月21〜24日
世界経済フォーラム開催（スイス・ダボス）

1 月 30 日
プラン・ジャパン職員が執筆した「わたしは 13 歳、学校に行けずに花嫁になる。」（合同出版）が増刷されました。

2 月 28 日〜３月８日
ネパール・スタディツアーを実施。計 16 名が参加しました

訪問先の歓迎会で日本の歌を披露する参加者たち

3月9日〜20日
３月８日の「国際女性の日」を受け第 59 回国連女性の地位委員会がニューヨークの国連本部にて開催され、プランからはケニア、ドミニカ共和国、エクアドルの女の子の代表たちが参加。世界のリーダーたちに声を届けました。（アメリカ・ニューヨーク）

3月23日
エボラウィルス感染者が公式に確認されてから一年のこの日、患者ゼロを目指し国際社会とのさらなる団結を誓い、犠牲者へ黙祷を捧げました。

11月19日 「Girl's Project 報告会〜増田明美さんと語る世界中のマララたちのこと〜」を開催

2014 年 11 月 19 日、プランが女の子のエンパワーメントを推進する Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンの活動報告会を東京・渋谷で開催しました。

これまでに実施した Girl's Project の報告に続き、スペシャル・ゲストとして、2014 年７月に西アフリカのトーゴを訪問した、プラン・ジャパン評議員の増田明美さん（スポーツジャーナリスト）が登壇。スポーツが女の子に与える影響や女の子が持っているチカラ、途上国と日本の女の子の共通点、私たちにできることなどをお話しいただきました。

約 50 人の参加者から質疑応答を受けたり、交流会を行うなど終始和やかな雰囲気。参加者からは、「身近ではない開発途上国の人々を少しだけ身近なものに思えた」「スポーツと女性の地位向上の関係について、なるほどと思った」などの感想が寄せられました。

Girl's Project 報告会でトークする増田さん（中央）

1月20日 プラン・ナイジェリアが活動国として本格的にスタートしました！

プランが活動する国に、新しくナイジェリアが加わりました。アフリカの中西部に位置し、アフリカ最大の人口を抱えるナイジェリアは、驚異的な経済成長を続けています。一方で、貧困ライン以下で生活している国民が約半数を占め、学校に通っていない子どもたちの数が世界で最も多いなど課題も数多く抱えています。

プランでは、「教育機会の提供」「子どもや母親たちの保健問題の改善」「生計向上と能力強化」「子どもの保護と参加の推進」などの活動を中心にすえ、アフリカで 25 番目の活動国ナイジェリアを支援していきます。

プラン・ナイジェリアのスタッフたち

開所式に参加したナイジェリアの子どもたち

2月4日 渋谷職員がインドに赴任。ラジャスタン州における乳幼児の総合的栄養改善事業に従事します

５歳未満児の年間死亡者 140 万人のうち、３分の１以上が栄養不良に起因していると言われているインド。その背景には、人々の知識不足、保育施設や栄養不良治療施設などの未整備や人材不足、施設へのアクセスの悪さなどが挙げられます。西部ラジャスタン州ウダイプール県とビカネール県も、多くの乳幼児が中度・重度の栄養不良に苦しんでいる地域のひとつです。

プラン・ジャパンは、外務省の日本 NGO 連携無償資金協力の助成金を受け、ラジャスタン州において乳幼児の総合的栄養改善事業を実施するため２月初旬に渋谷朋子職員をインドに派遣。３年間にわたる事業では、行政との連携・協力体制の強化を図るとともに、栄養、母子保健、水と衛生、ジェンダー平等などの多面的な切り口で、人々の能力強化、施設の環境整備、意識啓発などを実施し、子どもたちの栄養状態の改善に取り組みます。

聞き取り調査をする渋谷職員

植林はとても有効な防災手段のひとつ。暴風や土砂崩れなどを防ぎ、猛暑のときには日陰も作ってくれます

定期的に避難訓練をしていれば、イザというとき、すぐに正しい行動をとることができます

東南アジアのカンボジアは、毎年のように洪水、干ばつ、台風、土砂崩れといった災害に見舞われ、そのたびに大きな被害を受けてきました。災害が起こるといちばん大きな影響を受けるのは、やはり子どもたち。しかし今、その子どもたちがプランとともに立ち上がり、災害リスクを軽減するための様々な活動を繰り広げ、成果をあげ始めています。今回は特に、災害に強い学校を作るためのプロジェクトについてご紹介します。

「災害に強い学校」作りを目指して子どもたちがアクティブに活動中！

～プラン・カンボジア「安全な学校作り：子どもたちの声に力を！」～

災害に強い学校を作って子どもたちの教育を守れ！

カンボジアは洪水、嵐、台風、土砂崩れ、干ばつ、森林火災といった災害にたびたび見舞われます。中でも洪水の被害は深刻ですが、それにもかかわらず全体の約2割の学校が、洪水の被害を受けやすい場所に建っています。実際この国では、学校に通えなくなる子どもの約4～5割の原因が洪水であると推測されているのです。

プラン・カンボジアは現在、地元の教育機関等と連携して、「災害に強い学校イニシアチブ」を展開しています。これは、子どもたちが安全に学べる施設・環境作りや、学校での防災教育等を支援するものですが、その一環として実施されているのが、子どもたち自身が防災活動などに参加する「安全な学校作り：子どもたちの声に力を！」プロジェクトです。現在、首都プノンペンおよびシェムリアップ州、カンポンチャム州、ラタナキリ州の計11コミュニティにある12の学校で展開中。将来はこの12校がモデル校となり、ほかの学校へも広めていく予定です。

子どもたちの熱心な活動が地域の防災能力強化にも貢献

子どもたちは、たとえば学校の建物の安全性を評価したり、災害発生時に危険と思われる場所をチェックして防災マップを作成したりします。そして、災害に強い学校モデルを確立し、施設の建設・修繕を決定し、避難手順や備品の準備といった防災計画を作成する場にも大人と一緒に参加します。学校では毎週2時間、子どもたちが防災について学ぶ授業が行われるほか、避難訓練やケガをした人の応急手当訓練等も実施。さらにゲームやラジオ番組、演劇などを通じて、地域の人たちの防災意識を高める活動も行っています。また、学校の子ども議会に所属し、活動を引っぱるリーダーとなっている子どもたちの中には、国の代表として国際的な防災会議に出席し、自分たちの体験談を発表するといった活躍を見せる子も出てきました。

地域に変化をもたらすには、まずコミュニティの人々の行動を変えていくことが重要です。子どもたちの熱心な活動は、親や教師をはじめとする地域の大人たちにも多大な影響を与えています。たとえば大人たちは、直接活動を手伝うことはなくても、自分たちが知っている知識を子どもたちに教えるようになりました。子どもたちもまた、自分たちが学んだ食料品の備蓄に関する知識などを大人たちに伝えています。こうして地域全体の意識が高まり、防災能力の強化も図られているのです。

今後プランは、国家レベルの災害リスク軽減の新しい行動計画（2014～2018年）においても、若者たちとともにその発展を推進していきます。

カンボジア
Cambodia

プランは2009年から、子どもを中心とした災害リスク軽減プロジェクトをスタート。15村、15の学校で、223人の子どもたちからなる15の子ども議会とともに活動を進めています。また、20のピア・エデュケーター（学びの友。子どもの権利や保護に関する知識をはじめ、様々なことを学び、それらを同世代の仲間たちに伝える役目を担う子どもたち）グループを作り、これまでに143人の子どもたちが防災についてのトレーニングを受けました。

避難訓練に続いて救助訓練。ケガをした友だちを安全に運び、応急処置をする方法を学びます

プロジェクト参加者の声

● イェン・ソフューンさん（20歳）／元子ども議会のリーダー

私が暮らしているシェムリアップ州のスレイスナムは、洪水などの災害が特に多い地域です。高校生のとき、私はプランの災害リスク軽減や気候変動などに関するトレーニングを受け、子ども議会のリーダーとしていろいろな防災活動をしました。国際的な防災会議にも2回出席し、2015年3月には仙台で開催された国連防災会議でもスピーチをしました（P4参照）。高校を卒業した現在は大学で法律を学んでいますが、将来は国際NGOで働き、誰かを支援する仕事をしたいと思っています。

プロジェクト関係者の声

● 私たちは、建設現場や森で切り倒された木を移植したり、その種子を活用したりして植林をしました。木々を育てるのはとても大変。きちんと水をあげるなど熱心に面倒を見なければなりません。でも、ここまで達成できたことをとても誇りに思っています（植林作業に参加した18歳のシムさん）

● 私は人里離れた地域に暮らす農民ですが、娘はまだ若いにもかかわらず、世界中の子どもたちと知識を共有することができています。私はよい教育を受ける機会を得られませんでしたが、娘が素晴らしい教育を受けることができてとても嬉しいですし、これからもどんどん成長してくれることを願っています（イェン・ソフューンさんの母親）

プロジェクト担当者からひとこと

子どもたちの活動の成果を実感しています

ソック職員
● プラン・カンボジア「安全な学校作りプロジェクト」担当

子どもたちが防災活動に携わることは、彼らの家族や地域全体にも貢献できるという点で非常に意義があると思います。子どもたちの活動のおかげで地域の安全性が向上し、いざというときのための備えも整ってきたと実感しています。これからも、防災に対する啓発活動などで一層貢献してくれることを期待しています。

カンボジアの子どもたちが防災訓練をする動画

こちらも要チェック！

『もし嵐がやってきたら？～防災訓練が「安全な学校」をつくる～』公開中！

カンボジアのとある学校で行われた避難訓練・救助訓練を記録した約2分の動画『もし嵐がやってきたら？～防災訓練が「安全な学校」をつくる～』（Storm Simulation Exercise in Cambodia）。プラン・ジャパンのYouTubeチャンネルで、日本語字幕付きでご覧いただけます。子どもたちが、楽しみながらも真剣に訓練を行う様子は必見です！

● **動画を見るには―**

「プラン・ジャパン」のウェブサイト **www.plan-japan.org** へ
▼
上部にある「資料や動画の案内」をクリック
▼
左にある「プラン・ムービー」をクリック
▼
囲み内の「プラン・ジャパンのYouTubeチャンネル」をクリック

https://www.youtube.com/user/planjapantv/videos

2015年以降の国際開発はどうなっていくの?

今年（2015年）は世界にとってとても重要な年。2000年にスタートした国連の「ミレニアム開発目標（MDGs）」が達成期限を迎え、その後の国際社会が向かうべき方向が決まる「ポスト2015年開発目標（ポスト2015）」が採択されるのです。でも、そもそも「MDGs」って何？「ポスト2015」は誰がどうやって決めているの？――今回は、今、これだけは知っておくべき国際開発事情を、プラニーとともに学びましょう。

イラスト／西島尚美

Q1 「ミレニアム開発目標」って何？

21世紀が目前に迫った2000年9月、アメリカ・ニューヨークの国連本部に189の国連加盟国代表が集結し、「国連ミレニアム・サミット」が開催されました。そこで21世紀の開発分野における国際社会の共通目標である「国連ミレニアム宣言」が採択されたのです。後にこの宣言と、1990年代の主な国際会議・サミットで採択された国際開発目標を発展的に統合したのが「ミレニアム開発目標（MDGs）」。「MDGs」では、国際社会がともに取り組むべき重要な課題に対して、2015年までに達成すべき8つの目標と、より具体的な21のターゲット、60の指標が設定されました。8つの目標の中には、「極度の貧困と飢餓の撲滅」「初等教育の完全普及」「ジェンダー平等の推進と女性の地位向上」「乳幼児死亡率の削減」などの項目が含まれています。

ミャンマーの学校で学ぶ子どもたち

Q2 今年期限を迎える「MDGs」はどのくらい達成できたの？

「MDGs」が設定されて以来、国際社会は目標の達成に向けて様々な取り組みを行ってきました。その結果、たとえば①1日1.25ドル未満で生活する人の数が半減した、②小学校の就学率の男女格差が解消された、③安全な飲料水と衛生施設を利用できない人々の割合が半減した、④妊産婦の死亡率が45%減少したなど、いくつもの目覚しい成果が達成されています。しかし逆に、サハラ以南のアフリカ各地域では多くの目標で進捗が遅れていたり、都市部と農村部の格差、貧富の格差が広がっていたりするなど、達成がほぼ絶望的な目標や、新たな課題も出てきています。

マラリア予防の蚊帳の中で休む南スーダンの子どもたち

Q3 「ポスト2015年開発目標」ってどんなもの？

「MDGs」は、貧困問題が重要な課題として国際社会に認識されたこと、また野心的な達成目標と期限を定め、その達成に向けて世界各国が努力し、一定の成果を挙げたという点で画期的なものでした。一方、2000年以降の世界事情は大きく変わり、新たに深刻化した問題も出てきました。こうした状況を受け、国連は2015年以降の新たな国際開発目標が必要であると判断。2015年9月の国連総会において「ポスト2015年開発目標（ポスト2015）」を採択すると決定しました。「ポスト2015」は途上国だけでなく、2016～2030年の世界共通の目標となるものであり、今後の国際社会の方向性を規定する非常に重要なものなのです。

※数値は The Millennium Development Goals Report 2014 による

Q4 「ポスト2015」はこれまでの「MDGs」とどう違うの？

2012年6月に開催されたリオ＋20（国連持続可能な開発会議）で、「持続可能な開発目標（SDGs）」を設定し、「ポスト2015」と統合すると決まりました。貧困削減と同時に、持続的な経済成長、社会的平等の促進、環境保護といった“持続可能性”を併せて検討するのが「ポスト2015」の考え方なのです。また「MDGs」では、先進国の目標は8個中ひとつだけでしたが、「ポスト2015」は先進国・途上国の区別なく、世界共通の目標となります。日本も今後、目標をどう達成するか検討する必要があるのです。

ブラジルの子どもたち

Q5 「ポスト2015」の内容はどうなっている？

「ポスト2015」の策定作業は、潘基文国連事務総長の指示のもと、2013年にスタートしました。そして「ポスト2015」のベースとなる「SDGs」案が、2014年7月に発表されました。「SDGs」案には17の目標と169のターゲットが示されており、「MDGs」の目標よりもさらに踏み込んだ、「あらゆる貧困を終わらせる」「質の高い教育をすべての人に提供する」「ジェンダー平等を達成する」「国内・国家間の不平等を是正する」「気候変動に対する緊急対策を講じる」といった目標が含まれています。また全体的に、「sustainable」（持続可能な）、「inclusive」（包括的な＝すべての人、隅々にまで行きわたる）、「resilient」（回復力のある、立ち直る力がある）という表現が、重要なキーワードになっています。

ハリケーンに見舞われたハイチの集落

Q6 プランも「ポスト2015」の策定に関わっているの？

「ポスト2015」の内容を議論・交渉する場には、もちろん日本政府も参加しています。政府は国内の意見や要望を取りまとめるため、主だったNGO団体等と何度も会合をもち、意見交換を行ってきました。プラン・ジャパンも必ず参加し、「教育」「児童労働の廃止」「子どもへの暴力の撲滅」など、プランならではの提言や意見を伝えてきました。他の国のプランでも同様の活動を行っており、こうした間接的な形で、プランも「ポスト2015」の策定に大きく関わっているのです。

ギニアの子どもたち

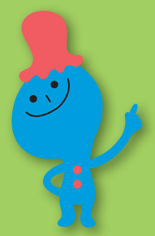
Q7 プランが「ポスト2015」に求めることとは？

プランは国連子どもの権利条約に基づき、子どもと若者の権利が「目標」に盛り込まれることを最優先に考えています。たとえば子どもに対するあらゆる形態の差別や暴力をなくす、早すぎる結婚や児童労働を撲滅する、すべての子どもの出生登録を行う、ジェンダー平等と女性・女の子のエンパワーメントを実現するといったことは、何よりも重要な目標であるはずなのです。またこれに基づき、子どもや若者が策定のプロセスに参加することも求めています。

強制労働から救出されたネパールの少女

Q8 「ポスト2015」は今後どうなる？

2014年7月に次期「SDGs」案が提出されて以来、国連加盟各国の担当者による政府間交渉がおよそ月一回のペースで開かれています。その中では、目標、ターゲットとそれぞれの細かな指標について議論が進められています。そして今年9月には、第70回国連総会で首脳級サミットが開かれ、合意文書が採択される予定になっています。9月の国連総会の発表に、ぜひ、注目してください。



ジェンダー平等を目指すために見極めるべき2つの側面

Let's try!

すべての子どもに、自らの権利を実現するための平等な機会が与えられるようにする――プランが目指す世界を実現するには、ジェンダー格差を解消し、女の子と女性のエンパワーメントを促進することが欠かせません。そこでポイントになってくるのが、今現れている格差や不平等は、どんな要素に起因するのかを見極めること。これらは地域の文化や価値観と深くからみあっているため、表面的な対処法ではなく、問題の根っこを掘り下げる必要があります。その際に役立つアクティビティを、プランが独自開発した教材「Planting Equality」からご紹介します。

「状況（Condition）」と「地位（Position）」。どちらの側面で問題が起きているのかを検証してみましょう

ジェンダーに基づく差別や不平等などの問題は、「状況」もしくは「地位」のどちらかの側面において起きます。この2つについて理解し、次の8つの問題がどちらの側面において起きているのかを考えてみましょう。分析することで、より効果的に問題を解決することができるのです。

1 女の子は、通学路で性的いたずらや虐待を受けることを恐れて学校を中退する

2 女の子は家事をしなくてはならないので、性と生殖に関する健康や権利にかかわるワークショップに参加できない

3 青年期の男の子たちは、複数のパートナーと危険なセックスをすることにより、男らしさを証明できると信じている

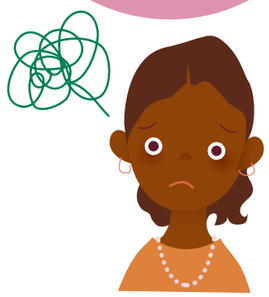
4 貧困家庭の女性は避妊具を使うことができない

5 男の子は、農作業の日雇い労働者として働くために、中途退学をする

6 女の子は、早すぎる結婚を強いられている

7 緊急支援活動の衛生キットには生理用ナプキンは含まれていない

8 政府による農業信用組合の受益者のほとんどは、世帯主である男性だ



● **状況（Condition）**
物質的な状態や日常の差し迫った生活環境の問題に関すること。家や食料、安全な場所といった、基本的なニーズを確保できているかどうか。

● **地位（Position）**
社会的地位や社会から与えられる価値、力関係に関すること。家や食料などを管理する権利、自分や周囲に影響を与える発言権や決定権があるかどうか。

プランがBecause I am a Girl（BIAAG）キャンペーンを通して取り組んでいるのは、男女のジェンダー平等を実現し、男の子も女の子も、男性も女性も、自らのことを自分自身で意思決定できる社会にすること。そのために、ジェンダーに基づく固定観念やジェンダーによる差別を引き起こす、根本的な原因に取り組むようにしています。

今回は、その根本的な原因へのアプローチに欠かせない、「状況」と「地位」という考え方をご紹介します。社会的・文化的に決定される男女の規範である「ジェンダー」は、女の子や女性だけでなく、男の子や男性にも不利益をもたらしますが、その原因を「状況」と「地位」に区別して対処しないと、根本的な解決にならないことがある、ということがわかってきたからです。

「状況」を解決しても、不公正がなくならない理由

今回は、プランが独自に開発した教材「Planting Equality」から、「状況」と「地位」について考えるアクティビティを紹介しました。挑戦した方は感じたかもしれませんが、不平等がどちらの側面で起きているのかを見極めるのは、なかなか難しい問題です。

「状況」における問題は、収入や資源などを利用する際の男女の格差や、性別役割分業によって引き起こされます。一方、「地位」における問題は、価値・権力・認識におけるジェンダー格差に起因します。そのため、「状況」を改善しようと役割分担を変えたり、女性の権利を向上させるように促しても、価値や権力につながる「地位」において改善がなければ、ジェンダーの不平等が根深く残ってしまうのです。

プランでは、2つの要因を区別したうえで、どちらか一方ではなく両方に対策をとることで、女の子や女性の「状況」や「地位」を向上させ、ジェンダーの不平等な力関係を変革することを目指しています。

「状況」によるものか、「地位」によるものか区別することから、問題への対処が始まります

ここでは、判断のもとになる考え方を紹介しますが、両方のタイプの問題に言及している、と感じる項目もあるかもしれません。2つを明確に区別することは難しいのですが、区別して考えることが問題に対処する一歩となります。

❶「地位」における問題

学校に通い続けることで、将来、広がるかもしれない機会の意思決定を、女の子は、暴力に対する恐怖によって自由にできなくなります。意思決定の機会を奪われることは「地位」における不公正につながります。

❷「状況」における問題

女の子は割り当てられた役割によって、新しいスキルを知り、学ぶことを妨げられています。ジェンダーに基づく役割分担は、「状況」に起因するものに分けられます。

❸「地位」における問題

男の子たちは、病気を恐れていないと証明することで「力強く見られたい」という気持ちを抱いています。そのため、パートナーの健康を考慮したり、大切なものだと思ったりしません。これは、社会的な価値観がもたらすものなので「地位」における不公正にあたります。

❹「状況」における問題

家族計画を立てたり、避妊具を使う知識や経済力を持てないことのしわ寄せは、「状況」が作りだすものです。そのしわ寄せを受けるのは、女性たちということを表しています。

❺「状況」における問題

男の子は、早くから収入を生み出す仕事をして、一家の生計に貢献するように期待されています。ジェンダーによる役割の固定は、「状況」におけるジェンダーの不公正にあたります。

❻「地位」における問題

女の子は、家族から金銭や物品と交換できる商品とみなされています。いつ誰と結婚するか、自分の意志で決定することは許されないことから、「地位」における不公正とわかります。

❼「状況」における問題

女の子や女性に特有な必需品は、緊急時にはしばしば無視されます。物質的な状況によるものは、「状況」における不公正に区別されます。

❽「地位」における問題

女性は農業従事者として認められないことが多く、そのため農業信用組合の貸付を受けられず、父親や夫や息子が担保する資金に頼らなくてはなりません。意思決定をする機会を奪われることは、「地位」におけるジェンダーの不公正にあたります。

イラスト／西島尚美

スポンサーの疑問を解決！ 気になることQ&A ③

スポンサーシップに関して寄せられる質問にお答えしていく連載。今回は、「チャイルドの国によって、お手紙に違いがありますか?」という疑問をとりあげました。

Q チャイルドが違う国の子に変わったらお手紙のトーンもだいぶ変わったのですが…

新しいチャイルドに変わった、あるいは新たに交流チャイルドを追加したスポンサーから、「前のチャイルドとお手紙の感じが違うのですが…」というお問い合わせをいただくことがあります。

Q&Aの第1回でもご紹介しましたが、チャイルドの住む国の環境や文化によって、"手紙"の捉え方はいろいろ。インドやパキスタン、バングラデシュでは目上の人に失礼があってはいけないという意識が強く、かえって代筆を頼むということがあります。また、識字率の高いフィリピンではお手紙を書くチャイルドも多くなりますし、逆にベトナムの山岳地帯では書けない子が多いのが実情。アフリカは全般的に素朴な絵を描いて送るチャイルドが多いようです。

また、幼児のうちは字が書けませんから、本人が書いたお手紙が届くまでに4〜5年かかることも。一方、年長のチャイルドは期間終了までの時間が短いですが、手紙でのやりとりができる可能性は高くなります。

プラン・スポンサーシップは、支援先の国や地域、ご紹介するチャイルドの年齢が幅広いことも特徴のひとつ。出会ったチャイルドを通して、世界の国々の違いを感じ取っていただけたらと思います。

ウガンダのチャイルドの手紙

エクアドルからの手紙

チャイルドの年齢や住む国の文化によってお手紙に違いがあります。文化の違いや成長を愉しんで。

チャイルドとの交流に関連するQ&A

年長のチャイルドを紹介されました

年長のチャイルドは手紙が書ける確率が高い

チャイルドの登録期間は18歳までなので、年長のチャイルドを紹介される場合もあります。年長のチャイルドは、成長の時間を待つことなく、手紙での交流が始められることがメリット。ご支援を広げて、2人目、3人目のチャイルドと交流を始める方におすすめです。

交流チャイルドの国や年齢の希望は出せますか？

ご要望がありましたらお知らせください

チャイルドの性別や、住んでいる地域、国や年齢に対して、ご希望がある方はお知らせください。特にご要望がない場合は、スポンサーとの交流を長く待っている子どもの中から順番にご紹介しています。思いがけない国のチャイルドとの出会いが、新たな世界へ目を向ける一歩となるかもしれません。

チャイルド本人から手紙がこなくて寂しい…

毎年発行の「一年の歩み」で成長を見守って

年に一度、必ず「一年の歩み」というレポートをお届けしています。これは地域ボランティアがチャイルドを訪問し、写真を撮り、活動やコミュニティの近況も含めて丁寧に作成しているものです。まだ歩けない小さなチャイルド、字が書けないチャイルドの成長の様子は、どうぞ「一年の歩み」で見守ってください。

スポンサーシップについてのQ&Aは、ウェブサイトの「よくある質問」コーナーにも掲載しています

チャイルドの登録や手紙についてのご質問は、「チャイルドについて」「手紙・ギフトについて」をご覧ください

http://www.plan-japan.org/faq

企業との連携はますます多様化しています

企業との連携は寄付をいただくだけでなく、さまざまな形で行われます。今回は寄付者とプランをつなげる例をご紹介します。

三井住友信託銀行

「財産を社会に役立てたい」というニーズに応え、遺言書の作成から執行までをサポート

亡くなった際にご自身の財産を寄付する「遺贈」について、三井住友信託銀行リテール業務推進部 財務コンサルタント室室長の中澤孝一さんに伺いました。

中澤さん 「遺贈」というのは、遺言者の財産すべてまたは一部を無償でお譲りすることを言います。法定相続人以外に財産を残したいときは、遺言書をつくり、遺贈する受遺者を指定する必要があります。

最近では、法定相続人がいないケースも増えてきており、「財産を団体に寄付して社会に役立てたい」という意志をお持ちの方もいらっしゃいます。相談を受けた際には、提携先のひとつであるプラン・ジャパンのような団体をご紹介することもありますし、出身大学やお世話になった老人ホームなど最初から遺贈先を決めていらっしゃるケースもあります。

――遺言書を作成する際、注意すべきことはありますか？

中澤さん 遺言書は個人で書くこともできますが、弁護士、行政書士、信託銀行など専門家のアドバイスのもとで作成し、公正証書遺言にすることが重要です。また遺贈をする際は、いくつか注意点があります。法定相続人がいる場合は遺留分が法律で定められているので、トラブルを防ぐにはその権利を侵害しない財産の分け方に配慮すること。また、遺贈する財産が、現金か、不動産や株式などの有価証券かによって税金のかかり方が違ってくることがあります。不動産や株式などの場合は、みなし譲渡所得税がかかるケースもあり、思いがけない高額の税金を払う場合もあります。適切なアドバイスができる専門家に相談することが大事です。

――信託銀行に依頼した場合、どんなサービスを受けられますか？

中澤さん 信託銀行では、遺言書を作成する際に遺言内容のアドバイスを行い、その管理・保管をし、遺言を執行する際は遺言執行者に就任いたします。

遺言書は公証役場でも保管しますが、三井住友信託銀行では、遺言書作成後も変更の必要性がないか定期的に内容の確認をさせていただきます。

「遺言書はスーツの仮縫いのようなもの」で、作成時と遺言執行時では財産の内容が変わっているものです。そのため、遺言書作成時においても、財産内容の変化にも対応可能な内容で作成することを心がけています。

また、信託銀行は金融資産も不動産も扱うため、遺言執行手続きを早く、そして正確に行うことが可能です。

プラン・ジャパンに遺贈した場合次のような流れになります

遺言執行のご連絡をいただいた後、プラン・ジャパンは遺言書の付言事項等に記載されている遺言者のお気持ちを尊重しながら、実施するプロジェクトを選定します。遺言書に活用方法の具体的なご希望が書かれている場合はそれに沿う形で、ない場合は、その時点で最も優先度・緊急度の高い活動に活用します。学校の校舎や井戸などの施設がある場合は、寄付者のお名前などを明記したプレートを記念に残すこともできます。

三井住友信託銀行を通した遺贈で建てられたベトナムの小学校

株式会社 大地を守る会

会員向けにイベントやチラシでプラン・ジャパンの活動を紹介

プラン・ジャパンの活動を伝える場を提供していただきました。

大地を守る会の宅配サービス

株式会社大地を守る会は、自然環境と調和した、生命を大切にする社会の実現をめざし、安全・安心とおいしさにこだわった農・畜・水産物、加工食品、雑貨等をお届けする宅配サービスを運営しています。同社では、毎年2〜3月に会員様と生産者、社員の交流を目的にイベントを開催しています。本年度のイベントでは、プラン・ジャパンの活動に賛同し、プラン・ジャパンの活動紹介と世界の女の子たちが直面する様々な状況を描いた映画『Girl Rising ～私が決める、私の未来～』のダイジェスト版を上映する機会を提供してくださいました。また、3月には、プラン・ジャパンのチラシを宅配カタログに同封して会員様に配布してくださいました。

Information* お知らせ

ネパール・スタディツアー報告会開催！

2015年2月28日～3月8日に実施された「ネパール・スタディツアー」の報告会を、下記日時に行います。実際に活動地域を見てきたツアー参加者の生の声をお聞きください。また、プラン・ジャパンがネパールで実施しているプロジェクトの経過報告も行います。席数に限りがありますので、お申し込みはお早めに。
【日時】
2015年5月17日（日）13：30～15：30
【会場】
キャロットタワー4階　世田谷文化生活情報センター　生活工房ワークショップルーム（東急世田谷線三軒茶屋駅すぐ／東急田園都市線三軒茶屋駅より徒歩3分）
【定員】
40人（お申し込み順。定員に達し次第締め切りとなります）
【お申し込み方法】
ウェブサイト（http://www.plan-japan.org/）の「ネパール・スタディツアー報告会お申し込みフォーム」よりお申し込みください
【お問い合わせ先】
コミュニケーション部
スタディツアー報告会担当
TEL：03-5481-0030
Mail：event@plan-japan.org

お勤めの職場で気軽に支援をしてみませんか？

“企業支援”というと、規模の大きな話と思われている方が多いのではないでしょうか。しかし実際にはさまざまな形があり、社員一人ひとりが気軽に取り組むことができるものもあります。例えば以下のような支援活動を、あなたも職場でやってみませんか？
● マッチングギフト：社員の寄付に対して、会社が同額もしくは一定比率の額を加えてくれる制度です。もし勤務先の企業にこの制度が導入されていたら、ぜひ申請してください。あなたのプラン・ジャパンへの支援が倍増します！
● ポスターやチラシの設置：職場にポスターやチラシを設置することによって、プランの活動をひとりでも多くの方に広めてください。ご請求いただければ、すぐに送付いたします。
● 社内上映会の開催：社内のイベントや集まりで、途上国の女の子の現状を描いた映画『Girl Rising～私が決める、私の未来～』を上映しませんか？　映画の上映会を通じて、途上国の女の子への支援の輪を広げてください。
【お問い合わせ先】
ファンドレイジング部　コンタクトポイント係　TEL：03-5481-7100
Mail：hello@plan-japan.org

ある企業で行われた映画の社内上映会

キャンペーン第4弾
使わなくなったモノが、子どもの支援に役立ちます！

古本・CD・DVD・ゲームのネット中古書店「ネットオフ」では、プラン・ジャパンの活動に賛同し、ご家庭・学校・企業・団体などに眠っている本、CD、DVD、ゲームソフト、ブランド服・バック・財布・時計、金・プラチナ製品といった不用品をお送りいただくことで、その買取金額を全額プラン・ジャパンに寄付するキャンペーンを実施中です。ネットオフからの寄付金は、プラン一般プロジェクトに活用させていただきます。過去3回にわたって実施したキャンペーンでは、毎回皆様からたくさんの不用品をお送りいただき、ご好評をいただいています。この機会に、ご家庭や学校の不用品の片付けも兼ねて、途上国の子どもたちを応援しませんか？
【キャンペーンサイト】
www.netoff.co.jp/plan
【実施期間】
2015年5月31日まで
【お問い合わせ先】
ネットオフ　プラン・ジャパン支援係
TEL：0120-0202-86
（受付時間10：00～17：00）

ネットでお申し込み後、不用品を段ボールに詰めて宅配便（着払い）で発送

スタッフの講師派遣依頼を受け付けています！

プラン・ジャパンでは、「子どもの権利」「女の子の現状とチカラ」「NGOスタッフとして働くこと」といったテーマで、スタッフを講師として派遣しています。2014年度は40校、約5,000人を対象に、プランのスタッフが授業やワークショップを行いました。総合的な学習の時間、キャリア教育、国際理解教育、教員研修等でぜひご活用ください。詳しくはウェブサイトをご覧の上、担当者までご相談ください。
【ウェブサイト】
http://www.plan-japan.org/school/
【お問い合わせ先】
コミュニケーション部 講師派遣担当
TEL：03-5481-0030
Mail: education@plan-japan.org

マララさんをテーマに特別授業

「書き損じ・未使用はがきキャンペーン2015」へのご協力ありがとうございました！

同キャンペーンへの皆さまのご協力のもと7万7,155枚のはがきが集まり、寄付金額も327万4,021円になりました。ご参加いただいた皆さまに、心よりお礼を申し上げます。はがきの回収や仕分けは、以下にご紹介する有志の学生グループが中心になって実施。また、映画『Girl Rising～私が決める、私の未来～』の上映会主催やオリジナルポスターの掲示、ソーシャルメディアを通じて、はがきの送付を呼びかけてくださいました。
※昭和女子大学ボランティア委員会／創価大学SaveChildrenNetwork／南山大学短期大学部伊東研究所／富士見中学高等学校ボランティア委員会／宮城学院女子大学国際支援活動Triangle／明治学院大学ボランティアセンター海外プログラム事業部（五十音順）

はがきの仕分けをする学生グループ

新企画
「プランと話そう in 松本」開催！

全国の支援者の皆さまと直接お会いする機会を増やすことを目的に、新たに「プランと話そう」シリーズを企画しました。第一弾の開催地は、長野県松本市です。現地での活動あれこれや、プランについての日頃の疑問・質問にお答えします。長野出身のプラン職員が、トーゴやベトナムへの出張経験を交え、プランの活動についてお話する予定です。支援者の方からのご厚意で、おいしいコーヒーの差し入れがあります。ぜひお気軽にご参加ください。
■ 日時：6月14日（日）14：00～16：00
■ 会場：松本商工会館
（長野県松本市中央1丁目23-1）
■ 参加費：無料。ただし、事前申込が必要です。
■ お問い合わせ先：支援者サポート部
竹崎・大重
■ Mail：service@plan-japan.org

Message board* 伝言板

各地の支援者の会からの伝言板

プラン名古屋の会「世界一大きな授業」W
■ 日時：5月10日（日）10：00～12：00
■ 会場：名古屋市市民活動推進センター（名古屋市中区栄3-18-1ナディアパーク6階）
■ 内容：今年も「世界一大きな授業」（対象：小学生以上）を開催します。どなたでも参加可能ですので、ご家族、ご友人を誘ってご参加ください。また12:45から、有志による振り返り会兼懇親会も予定しています。
■ 参加費：500円（5月8日までに下記までお申込みください）
■ 連絡先：安藤
Mail：info@plan-nagoya.sakura.ne.jp

プラン広島の会「お手紙書き会」f
■ 日時：5月16日（土）、6月20日（土）、7月18日（土）14：00～16：00
■ 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ3Fまたは2Fフリースペース（広島市中区袋町6-36）
■ 内容：チャイルドへの手紙書き。チャイルドと交流されていない場合でも大丈夫。プラン広島の会が交流しているチャイルドへ一緒にお手紙を書きましょう。
■ 参加費：無料、申込不要
■ 連絡先：小村
Mail：naokomura@kej.biglobe.ne.jp

多摩SP会 W
■ 日時：5月24日（日）13：00～17:00
■ 会場：八王子市生涯学習センター　クリエイトホール　11F　第7学習室（八王子市東町5番6号）
■ 内容：スタディツアー参加者のお話を聞き、意見交換を行います。たくさんのご参加をお待ちしています。
■ 参加費：200円、事前申込要
■ 連絡先：世話人
Mail：tama-web3@ngo-npo.org

プラン山陰の会 f
■ 日時：5月24日（日）14：00～16：00
■ 会場：松江市市民活動センター　研修室401（松江市白潟本町43番地　松江市スティックビル）
■ 内容：プラン山陰の会の活動も今年で6年目。茶話会をしながら、今後の活動について話しましょう。チャイルドの写真、手紙などもご持参ください。
■ 参加費：500円、申込不要。お気軽にご参加ください
■ 連絡先：岡川
Mail：leafmoon804@yahoo.co.jp

プラン東京の会「フッリーヤ　ベリーダンスチャリティーショー Vol. 2」W
■ 日時：6月20日（土）13：00～
■ 会場：ミラフローレス恵比寿店
■ 内容：今回で2回目となる、実力派ダンサーのみを集めた本格的なベリーダンスショー。ペルー大使館お墨付きレストランの美味しいお料理とともにお楽しみいただけます。
※5月には映画『Girl Rising』の上映会も予定しています（詳細はウェブサイトを参照ください）。お楽しみに！
■ 参加費：3,500円（ペルー料理付）、事前申込要
※お食事代を差し引いた全額を、プランのGirl's Projectに寄付致します
■ 連絡先：本田
Mail：salaamdance@gmail.com

山形・秋田プランの会（旧称：庄内・羽後プランの会）
■ 日時：7月12日（日）13：00～16：30
■ 会場：山形県生涯学習センター遊学館（山形市緑町1-2-36）
■ 内容：プラン・ジャパン職員による活動報告、チャイルドへの手紙書き、参加者同士の交流などを予定しています。また17：30より、有志による懇親会も行いますので是非ご参加ください。山形市での初めての開催です。県内の方の多数のご参加をお待ちしています。
■ 参加費：500円、事前申込要（7月6日まで）
■ 連絡先：岩谷
Mail：tadaya-i@chive.ocn.ne.jp

Wウェブサイト fフェイスブック
上記アイコンのある会については、プラン・ジャパンのウェブサイトから各会のページにリンク
「トップページ→プラン支援者の方へ→プラン支援者の会」www.plan-japan.org/supporter/plankai
※ウェブサイトにはイベントの開催報告も掲載しています。ぜひご覧ください。

※「プラン・ニュース」No.99は、2015年7月中旬にお届け予定です！

コミュニティ訪問レポート ―― The Philippines フィリピン

25年以上も交流を続けている フィリピンの子どもたちの笑顔が 私たちの心を豊かにしてくれます

Ｔシャツをプレゼントした子どもたちと記念写真！

秋吉幸子さん・森田美千代さん姉妹は、25年以上前にスポンサーに登録。
２人揃ってコミュニティ訪問をするという目的もあり、
それぞれフィリピンのチャイルドと交流を続けてきました。
2007年からは、およそ2年に一度というペースで一緒に現地を訪れ、
2014年11月、秋吉さんは5度目、森田さんは4度目の訪問に出かけました。

今回は、私たち姉妹にとって 2011 年以来、約３年ぶりのコミュニティ訪問でした。もともとは 2013 年末に予定していたのですが、大きな被害があった台風「ハイエン」の影響で断念。約１年後の実現となりました。

今回訪問するチャイルドは、姉（秋吉さん）は６人目のマイリッシュちゃん（15 歳）。以前のチャイルドが卒業したのと同じ頃に従姉が亡くなり、彼女のチャイルドとの交流を 2013 年９月に引き継ぎました。一方、妹（森田さん）は４人目のジャスティンくん（15 歳）。以前のチャイルドが卒業し、2014 年４月から交流を始めました。

私たちはセブ島で１泊後、船でレイテ島へ。プランの事務所があるソゴットに宿泊しましたが、ここは幸い、「ハイエン」の被害はほとんどなかったそうです。翌朝、最初はジャスティンくんが暮らすコミュニティへ。今回はあらかじめ保育園の訪問を希望していたので、地元の保育園を訪れると、園児たちと一緒にジャスティンくんが出迎えてくれました。

その後、彼の家に移動して昼食をごちそうになったのですが、ジャスティンくんはとってもシャイで、「将来の夢は何？」と聞いても、お姉さんに向かって小声で答え、彼女が「大学に行きたい」と教えてくれる始末。でも本当にかわいらしい男の子でした。

昼食後、マイリッシュちゃんが暮らすコミュニティへ移動すると、彼女は家族や友だちと一緒に私たちを出迎えてくれました。マイリッシュちゃんは、とても明るく素敵な女の子。「フィリピンの女の子をどう思いますか？」と聞かれたので、「みんなかわいいけれど、マイリッシュが一番よ！」と答えたら、とても嬉しそうに笑ってくれました。

その後はマイリッシュちゃんと一緒に地域の保育園を見学し、コミュニティ訪問は終了。今回の訪問では、子どもたちがわざわざ正装をして温かく歓迎してくれたことや、先生方が熱心に教育を行っている様子が印象的でした。私たちは毎回、文房具、旅館等でもらうタオルや歯磨きセット、手作りバッグや折り紙などをお土産にしていますが、今回は子どもたち全員分のカスタネットや、発注ミスで行き場のなかった子ども用Ｔシャツを引き取って持参し、大変喜んでもらえたのもいい思い出です。

私たち姉妹は、体力的にそろそろ海外旅行が大変な年代。もしかしたら今回が最後の訪問になるかもしれません。でも子どもたちに実際に会うと、本当にいつも心が豊かになると感じます。スポンサーのみなさんには、ひとりでも多く、この素晴らしい体験をしていただけるといいなと思っています。

とてもシャイだったジャスティンくん（右から３人目）

マイリッシュちゃん（左から２人目）は笑顔がキュート

Plan news
2015 Spring No.98

公益財団法人プラン・ジャパン www.plan-japan.org
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル10F
TEL 03-5481-6100 FAX 03-5481-6200 service@plan-japan.org

表紙写真／防災訓練に参加するタイの男の子たち